

2012年3月2日

住友林業における環境配慮への取り組み“Project EARTH” 「第1回 カーボン・オフセット大賞」奨励賞を受賞！ ～建築した住宅の2倍の面積をインドネシアの荒廃地に植林～

低炭素社会の構築に向けて優れたカーボン・オフセットの取り組みを募集し表彰する「第1回 カーボン・オフセット大賞」(環境省後援)において、住友林業株式会社(社長：市川 晃 本社：東京都千代田区大手町1丁目3番2号)は、戸建住宅の建築に伴うCO₂排出量を、インドネシアでの新たな植林でカーボン・オフセットする取り組みにより、奨励賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

「カーボン・オフセット大賞」は、環境省の後援を受けカーボン・オフセット推進ネットワークの主催により創設され、環境に配慮された低炭素社会の実現に向けたカーボン・オフセットの優れた取り組みを表彰するものです。カーボン・オフセットの取り組みを奨励するとともに、事例の紹介を通じて、カーボン・オフセットの意義と取り組みへの理解が社会全体に広く浸透することを目的としています。

審査においては、対象となる活動の継続性やCO₂排出削減に向けた取り組み内容が優れているかという点のほか、生物多様性等のCO₂排出削減以外の環境保全活動の効果や、地域・社会の活性化にどのような貢献をもたらしたか、市民や社会に向けてどのように情報発信を行ったか等の審査項目をもとに、優れた取り組みが表彰されます。



■受賞した当社の取り組み：「きこりんとProject EARTH～植林によるカーボン・オフセット～」

年間1万棟近く建築する注文住宅、分譲住宅全棟の主要構造材の伐採・搬出・製材・運搬・施工の各段階で排出されるCO₂全量相当のカーボン・オフセットを目的とする、地域社会・生物多様性にも配慮した植林及び育林活動。オフセットされるCO₂は1棟あたり約6t-CO₂、年間合計で約6万t-CO₂になります。

【取り組みイメージ】



■取り組み詳細

1) 植林地

植林地は、気候変動や生物多様性などの観点から、その熱帯林の保全と回復の重要性が国際的に注目されていること、また合板等の木質パネル製造、製品加工を行っている当社グループ企業があり関係性が深いことから、インドネシア共和国の荒廃地を選択しています。

2) 植林形態と植林の効果

植林は地域環境と社会への貢献を目的とし、立木を伐採しない「環境植林」と、成長した木を伐採し木材加工品の原料として利用し、再植林する「産業植林」を行います。「環境植林」は、一部が度重なる山火事などで荒廃し草

原となっている東ジャワ州にあるプロトウングルスメル国立公園で行い、その修復事業として、在来樹種を用いた植林を実施しています。ここではあわせて動植物の生物多様性のモニタリングも行っており、今後の生物多様性の推移と保全の方向性を明らかにしていく予定です。「産業植林」は、国立公園等の保護林以外の荒廃地を選び、地域住民と協力し、住民協働型の産業植林を行います。ここでは、ファルカタ等の早生樹を植林しますが、これらは伐採し、再植林を繰り返すことで、地域社会に雇用と木材販売による収入をもたらす、地域振興にも貢献する取組みとなっています。



産業植林対象地（スメル山麓）

3) 植林規模

1年間に建築した新築住宅、分譲住宅の延床面積の2倍を植林面積として、その年に植林を実施します。植林面積は年間で約300ha[※]（約300万m²、約90万坪、東京ドーム約64個分）という規模であり、植林本数は在来樹種やファルカタなどの早生樹を合わせ合計約30万本になります。

※年間1万棟を建築した場合

4) 植林期間・事業期間

当面2009年から5年間の引渡し済み戸建住宅を対象として、植林によるオフセットを実施。植栽後10年間にわたり管理・育林するため、事業期間は育林期間も含めて合計14年に及びます(2009年4月～2023年3月)。

■ 「きこりんとProject EARTH」 サイト

<http://kikorin.jp/pje/>

以上

《本件に関するお問い合わせ先》

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション室 松家・池田

TEL：03-3214-2270